

紫禁城(故宮)(世界遺產)(北京市)(故宮博物院)

紫禁城（しきんじょう、簡体字：紫禁城、拼音：Zǐ jìnchéng、満州語：ᡩᠠᡳᡵᡳᡤᡠᡵᡳ、転写：dabkūri dorgi hoton）または故宮（こきゅう、簡体字：故宫、拼音：Gùgōng）は、中華人民共和国北京市に所在する明清朝の旧王宮である歴史的建造物。「北京と瀋陽の明・清王朝皇宮」の一つとしてユネスコの世界遺産（文化遺産）となっている。面積は725,000m²ある。別称の故宮とは「古い宮殿、昔の宮殿」という意味で、現在は博物館（故宮博物院#中国 北京市）になっている。

沿革

元がつくったものを明の成祖永楽帝が 1406 年から改築し、1421 年に南京から北京へ都を遷してから、清朝滅亡まで宮殿として使われた。

1644 年の李自成の乱で明代の紫禁城は焼失したが、李自成の立てた順朝を滅ぼし北京に入城した清朝により再建され、清朝の皇宮として皇帝とその一族が居住するとともに政治の舞台となった。

1908 年 12 月に、西太后が光緒帝の後継者として愛新覺羅溥儀を指名したことにより、溥儀はわずか 2 歳 10 か月で皇帝に即位させられ、清朝の第 12 代宣統帝かつ紫禁城に居を構える最後の皇帝となった。

1911年10月に辛亥革命が起き、袁世凱の求めを受けて1912年2月に溥儀は退位したが、中華民国臨時政府の「優待条件」として溥儀とその一族は、紫禁城の内廷での居住を許された。

しかし1924年10月の馮玉祥による北京政変の際、11月5日を以って溥儀を初めとする皇族への紫禁城退去が通告され、その後は故宮と呼ばれルーヴル美術館などの例に倣い1925年10月10日に博物館として組織された。1949年に、中国共産党の指導者の毛沢東は城門の一つである天安門で中華人民共和国の建国を宣言した。

1961年に、中国国務院より国家重要文化財、1987年にユネスコより世界遺産に認定された。現在は建物自体も明と清の歴史を伝える故宮博物院の文物の一つとして一般開放されている。

主な建物

北京故宮南北の長さ 961m、東西の幅 753m、面積は約 725000m²。周囲は幅 52m の堀が囲む。城壁の高さ 12m、底厚 10m、頂厚は 6m から 7m。南に午門、東に東華門、西に西華門、北に神武門がある。「紫禁城」は中国の天文学に従い、北極星（天帝）を皇帝に擬え、地上に「紫微垣」を再現し、世界の中心を地上に再現した領域であり、天帝に代って地上を治める皇帝の住む宮殿として建設された。そのため「天子は南面す」の言葉通り、北に皇帝の宮殿が置かれている。紫禁城の由来は、天帝（創造主）が住んでいる星とされる北極星を紫微星、北極星の周辺を回る星座の辺りを紫微垣と呼んだのに由来する「紫宮」、及び「天帝の命を受けて世界秩序の維持に責任を持つ皇帝（天子）」の住居たる「禁城（庶民などが自由に入るのを禁止された城）」の二語を合わせ、紫禁城と呼んだことに由来する。



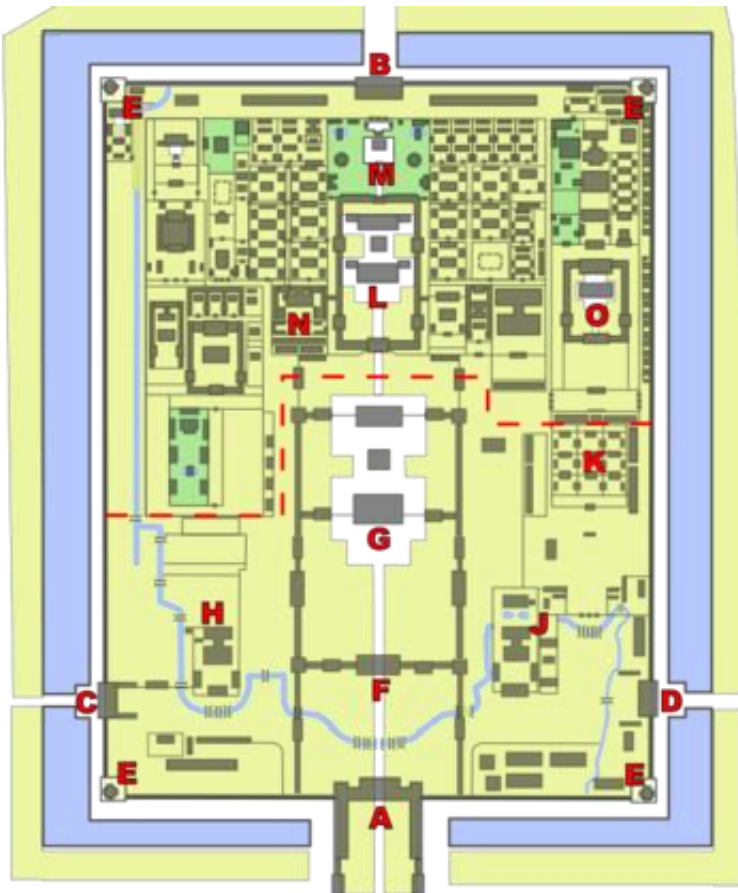
北側の景山公園からの紫禁城の眺め（中央手前は神武門）



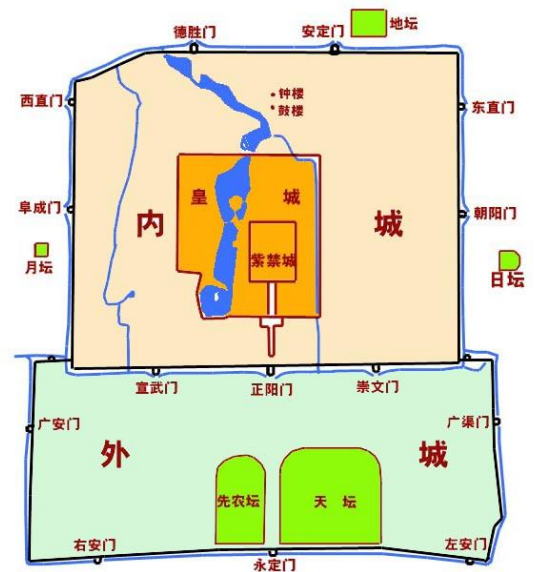
太和殿



故宮博物院の正門となっている神武門



紫禁城見取り図



紫禁城と北京の城門

Wikipedia による